

## 特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」が行った一般公開とそのアンケート結果

### Public Programs by the Research Group of [Dynamics of Volcanic Explosion] and the Public Response

# 久利 美和 [1]; 井田 喜明 [2]; 田中 良和 [3]; 谷口 宏充 [4]; 林 信太郎 [5]; 大島 弘光 [6]; 特定領域研究「火山爆発のダイナミクス」一般公開実行メンバー一同 久利 美和 [7]

# Miwa Kuri[1]; Yoshiaki Ida[2]; Yoshikazu Tanaka[3]; Hiromitsu Taniguchi[4]; Shintaro Hayashi[5]; Hiromitsu Oshima[6]; Kuri Miwa Public program working members of the Research Group of Dynamics of Volcanic Explosion[7]

[1] 東北大・理・地球惑星物質科学; [2] 兵庫県立大生命理; [3] 京大・理・地球熱学研究施設; [4] 東北大・東北アジア研セ; [5] 秋大・教文・地学; [6] 北大・理・有珠火山観測所; [7] -

[1] Inst. Mineral. Petrol. Econ. Geol., Tohoku Univ.; [2] School of Life Sci., U. of Hyogo; [3] Aso Volcanological Laboratory Kyoto Univ.; [4] CNEAS, Tohoku Univ; [5] Dep. of Earth Sci., Akita Univ.; [6] Usu Volcano Observatory, Hokkaido Univ.; [7] -

本特定領域では2004年7月に阿蘇火山周辺で、2005年11月に有珠火山周辺で2回の一般公開を行い、一部の参加者にアンケートに協力いただいた。アンケート結果に基づき、一般公開のあり方について本発表でまとめる。

2004年7月19日にくまもと県民交流館パレアにおいて市民講演会を、7月24-25日に展示企画を阿蘇火山博物館にて行った。講演会では、噴火災害軽減に向けての火山ハザードマップ、火山爆発現象解明のための野外爆発実験や無人の観測機器開発の試み、についての講演があり、さらに、特定領域外からの招待講師として、熊本大学教育学部 本特定領域では2004年7月に阿蘇火山周辺で、2005年11月に有珠火山周辺で2回の一般公開を行い、一部の参加者にアンケートに協力いただいた。アンケート結果に基づき、一般公開のあり方について本発表でまとめる。

2004年7月19日にくまもと県民交流館パレアにおいて市民講演会を、7月24-25日に展示企画を阿蘇火山博物館にて行った。講演会では、噴火災害軽減に向けての火山ハザードマップ、火山爆発現象解明のための野外爆発実験や無人の観測機器開発の試み、などについての講演があり、さらに、特定領域外からの招待講師として、熊本大学教育学部 渡辺一徳教授に阿蘇火山の紹介をお願いした。会場には、地元の学生も参加しており、アンケート結果からは、火山学を勉強する上での大きな参考になり、多大な刺激を受けたことが伺えた。その他の参加者からのアンケートでは、難解なテーマを分かりやすく扱ったとして評価された一方で、一般への不十分な宣伝のため企画の意義を問われた。展示企画では、MOVE デモンストレーションは、約200名の観覧者があった。火山防災教育ゲームには、140名の参加があり、夏休みの家族連れに大変好評であった。火山火口カメラ画像 / 地震波形のテレビ画面同時表示は、一般の人にとってもわかりやすく、ポスター展示とあわせて一般公開終了後も引き続き行われることが決定した。アンケートからは通りがかりの人が多く足を運んでいることが分かる。観光バスなどの時間が限られていたためか、回収率は極めて低いものの、その場で見たものが、観客の興味を十分に魅きつけていたことが、自由回答から読み取れた。

2005年11月27日に2度目の一般公開を有珠郡壮瞥町で開催した。日中はMOVE、投下型GPS、ドップラーレーダー、および、関連するポスターパネルの展示を行った。夕方の公開講演会へは40名弱の方に会場に足を運んでいただき、さらに、WEBカメラを通じて町内4カ所でライブ中継された。7件の講演は、最初の総括に続き、前半4件は観測をテーマに、後半2件は実験をテーマにした内容構成であった。最後の質疑応答の時間には、地元の防災関係の方から費用やオペレーターに関する具体的な質問があり、日頃からの関心の高さが伺えた。アンケート結果から、各種の案内を見て集まっていただけという事が分かる。近隣の参加者が多く、役場の方の協力で、地元の方へひろく案内が行き届いていたことが分かった。一般公開には地元の方との協力体制が欠かせない。一般向けの公開講演会としては内容が高度であったが、アンケートの感想を見る限り多くの方にしっかり内容を把握していただけている。火山一般をテーマとした発表が多く、地元の有珠山をモデルにしたものは、1件のみであった。一般向けの講演会では、地元の人にとってもっとも興味の深い、地元の火山を扱った内容を増やす努力も必要であろう。道外からの参加者が、「研究者だけでなく、地域の人を中心なのがよかった。」と記載していた。一般公開のあるべき姿かもしれない。

2度の一般公開で本特定領域外の方々からも多大な協力をいただいた。この場を借りて、お礼申し上げる